東京登文会NEWS

東京都登録有形文化財建造物所有者の会

号　外

令和2年9月25日

東京登文会見学会レポート

２０２０年９月１３日(日曜日)に見学会を開催いたしました。

今回は、大田区洗足池の湖畔に建つ「勝海舟記念館(旧清明文庫)」と勝海舟繋がりで池上本門寺の朗峰会館の庭、「松濤園」にある「勝・西郷会見碑」を見学するものです。その後、朗峰会館で、懇親会を催しました。通常「松濤園」は非公開ですが、今回は当会副会長で実相寺の酒井智章様のご尽力より特別公開となりました。

○勝海舟記念館見学

13時に東急池上線洗足池駅前に集合し、メンバーは７人となりました。集合場所から勝海舟記念館までほぼ１５分かかります。見所としては、海舟の別荘である「洗足軒」の跡地を記す解説板です。戦後しばらくしての火災で消失してしまいました。現在、は大森第６中学校の敷地になっています。当時、土地や建物の購入に当たっては、津田塾大学の創始者津田梅子の父、農学者の津田仙が仲介したそうです。海舟が、明治になっても幕臣としての繋がりを活用していたこと、幕臣から一目置かれていたという証明だと思います。もう一つの見所としては、妙福寺祖師堂(国登録有形文

化財)で、日連宗のお寺です。この寺境内で湖畔に袈裟掛けの松(２代目、３代目)があります。日連聖人がこの辺りで旅の途中足を洗ったという故事とこの地地名が千束であったことから転じて「洗足池」と言われるようになりました。

この勝海舟記念館の登録名は、鳳凰閣(旧清明文庫)となっており、大正１３年に設計、昭和３年に竣工した会館建築です。開館当初は、財団法人清明会が所有していました。清明会は、大正９年に仏教と儒教の精神を元とする東洋文化を広く人々「勝海舟先生の遺蹟を保存し、且国民精神涵養に資すべき図書を蒐集し、公衆の閲覧の供えて社会教育の一端に貢献し、本会に於いて行ふ他の事業と相俟ち、依りて似って、立正安国の道場たらしめん」とあります。また、この文庫をの開設に当っては、渋沢栄一など旧幕臣らなど財界からの尽力があったようです。なお、この清明文庫は、清明会の中心的な活動拠点でしたが、清明会は代表の男爵平山成信の体調不良などで活動期間が２年ほどで解散しています。その後、昭和２９年に所有者が、㈱学研に移り鳳凰閣として使用されることになりました。平成12年に国登録有形文化財に登録されるも平成23年に入り取

手動シャッターのハンドル差し込み口

正面(南側)

建物外観の特徴

建物全体は、鉄筋コンクリート造2階一部３階建ての立方体の形態ながら正面中央には４本の柱が垂直に伸びたネオゴシックのスタイルになっています。

玄関のヒサシは、鳳凰閣になってから取り付けられたもので現在は、ガラスのヒサシがつけられています。また、正面玄関は締め切りになっています。当時めずらしいハンドル式の手動シャッターが取り付けられています。

斜め正面

正面入口付近

正面入口内部

り壊し計画があったようです。しかし、平成24年に大田区が土地及び建物を取得し、勝海舟に関する資料の展示および洗足池の自然環境や地域の歴史文化を活かした施設として整備が進められています。

当日の解説をお申し出いただきました藤木工務店東京支店(文化財統括担当)の川田様は、「勝海舟記念館の修復保存プロジェクト」に参加された会社でご担当だったとのことで、当日はお忙しい中、いろいろと多岐にわたりご説明いただきました。感謝申し上げます。

--建物として-

この清明文庫は、当初から図書館と講堂としての機能が予定されておりました。建物は、北側と南側に分けられ、北側は、２階建てで、１階は閲覧室、２階は講堂、貴賓室となっていました。それに対して南側は、書庫として強固に作られ、北側と同じ高さですが、３階建てです。１階は、展示室として公開されています。ちなみに、有名な「海舟書屋」の額が展示してあります。また、２、３階は、記念館のバックヤードとして活用されています。

-建物北側の説明-

斜め後背

１階は、清明文庫時代は書庫の閲覧室として整備されていました。
鳳凰閣時代には、事務所的に使用されていたようです。現在では、勝海舟の業績や年表、特別展示などの展示のコーナーになっています。この１階の展示コーナーは、書庫１階も含まれており、今回は特別展示コーナーとして使用されていました。

2階講堂

講堂裏

２階は、主に講堂として講演会や会合に使用されていました。鳳凰閣時代には、講演台は取り外されていました。写真は、２階の北側(正面側)から南側(裏側)を

撮影したものですが、講演台奥の書庫の階段が写っています。また、講演者の控室があるなど非公開エリアも見事に修復されています。当館図録でのみ確認できます。(今回は特別公開はありませんでした。)

管理棟M２階について
勝海舟記念館を修復するにあたって、エレベータや、受付、事務室など付帯設備が入った管理棟を隣に建ててあります。この棟にM2階がありますが、これは、南側2階に入るために管理棟にもうけた階です。

–建物南側の説明–
設計当初は、２階建てでしたが、M2階を作るという形で３階建てになりました。北側と違和感なく連結しています。
外からはわからないのですが外壁は２重になっており内部は、煉瓦で覆われ、さらにその入り口は手動シャッターで密閉するという徹底した防火対策が講じられていました。現在、その遍歴は公開エリアでは、見ることができませんが、１階の特別展示の部屋の入り口にあるシャッターとその手動クランク装着部を確認することができるのみです。

〇池上本門寺松濤園「勝・西郷会見碑(都旧跡指定)」見学と懇親会
　洗足池の勝海舟記念館から池上本門寺までタクシーで移動しました。池上本門寺は、日蓮宗の本山で、日蓮聖人の入滅地です。また、副会長の酒井智章様の實相寺もこの地にあります。この本門寺の庫裏、会館として朗峰会館があります。ここの庭が「松濤園」です。設計は小堀遠州と言われていますが、戦災で焼けており当時とは趣

を異にしています。明治維新の時は、西郷隆盛が指揮する新政府・薩摩軍がこの池上本門寺一帯に駐屯していました(なかなかテレビ等には出てきませんが)。西郷隆盛は、理境院の書院に逗留していたとのことです。なぜ、松濤園に足を延ばしたかというと、この「松濤園」内に勝、西郷会見の碑があるためです。ここにあった茶室で数度に渡り無血開城前後に会見が行われたようです。
(池上での会見については、文献によって日程の差があり、前後としました。)
勝家の邸宅のあった赤坂から本門寺に赴く途中に休憩によった洗足池を気に入り別宅を求めた経緯がありました。のちに墓地として希望したのもうなずけます。勝家は、日蓮宗にゆかりがあり、生家近くの能勢妙見山別院があり、深く信仰していました。また、本門寺も日蓮聖人の入滅地であり、立ち寄ったのも日蓮聖人ゆかりの洗足池であった事になにか因縁を感じたのかもしれません。

松濤園の奥深くに、その碑はありました。碑文は、西郷隆盛の実弟、西郷従道の嫡子、西郷従徳の筆になるものです。
この碑は、昭和11年標識、昭和30年旧跡指定がされています。
登録名は「南州海舟評議の処」となっています。

この見学あと朗峰会館の一室で懇親会を催しました。楽しく交流を深めることができました。

《参考文献》

藤木工務店様説明資料
WEB資料：江戸時代から始まる大田区の変貌
WEB資料：平成23年日本大学理工学部　学術講演論文集「鳳凰閣の建設的特徴」大田区の歴史的建造物(1)
WEB資料：池上本門寺ホームページ
WEB資料：国指定文化財データベース
WEB資料：東京都文化財情報データベース
勝海舟記念館図録

<参考資料>

～洗足池・大岡山周辺の国登録有形文化財建造物のリスト～

①妙福寺祖師堂（旧七面明神堂）
②鳳凰閣（旧清明文庫）
③東京工業大学本館、東京工業大学七十周年記念講堂、東京工業大学大岡山一号館(旧分析化学実験室)

～池上本門寺周辺の国登録文化財建造物のリスト～

①池上本門寺宝塔（重文）
②本門寺五重塔（重文）
③実相寺本堂、実相寺門
④萬屋酒店

２０２０年度役員(案)

2020年の総会が開催できませんので(案)とします。

会長	金澤正剛	金澤家住宅
副会長	伊藤信夫	丸石ビル
	酒井智章	實相寺
	小池邦夫	鳳明館本館
理事	大和田真一	難波商店
	平間美民	西郊ロッヂング
	坪内富士夫	教證寺
	村守恵子	ギャラリー エフ
	小倉弘安	総建設計
	藤島幸彦	NPO法人 歴史的建造物とまちづくりの会
	柳澤示一	NPO法人 歴史的建造物とまちづくりの会
事務局	渡辺俊司(局長)	西洋館倶楽部
	高橋弘樹	旧高橋診療所
顧問	入江建久	新潟医療福祉大学名誉教授
	後藤治	工学院大学教授
	日塔和彦	東京芸術大学客員教授
	藤井恵介	東京大学教授
	三船康道	ジェネスプランニング

発行：東京都登録有形文化財建造物所有者の会

事務局：〒143-0023東京都大田区山王３－３０－５
☎/FAX：03(3771)0439
Keitai080(5440)2957